

学校の特色を生かした「キャリアノート」の効果的な活用

— 高等学校での取組から —

【研究者】

企画部 指導主事 永井 博美

【研究指導者】

福山大学人間文化学部人間文化学科 教授 小原 友行

【研究協力校】

広島県立廿日市高等学校 広島県立広島工業高等学校 広島県立西条農業高等学校

広島県立広島商業高等学校 広島県立広島高等学校

【研究協力員】

広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 住吉谷 大輔

広島県教育委員会高校教育指導課 指導主事 吉屋 晋二

研究の要約

本研究は、平成20年度に広島県教育委員会が作成し、平成21年度から全公立学校で活用している「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック～」(以下、「キャリアノート」とする。)の学校の特色を生かした効果的な活用に向けて提案するものである。新しい学習指導要領では、小学校から高等学校において児童生徒が学習や活動を記録する「キャリア・パスポート」の活用を求めている。これに先立ち、広島県で平成21年度から全公立学校で活用している「キャリアノート」の平成29年度全公立学校における活用状況は100% (平成30年2月広島県教育委員会とりまとめ)であった。しかしながら、中学校から高等学校へ持ち上がった学校割合と中学校(中学生)から受け取った割合の差は30.0ポイントと大きな開きがあり、学校間の系統的な取組といった点で課題があることが分かった。そこで、本研究は、高等学校における「キャリアノート」の活用状況を把握するとともに、高等学校での取組から学校の特色を生かした効果的な活用について整理した。そして、「キャリアノート」を基盤としつつ、中学校から高等学校へとつなぐ「キャリアノート」改善試案を作成し、高等学校における活用例を提案する。

はじめに

キャリア教育は、児童生徒がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけである。そして、キャリアの形成にとって重要なのは、自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身に付けることである。

キャリア教育の必要性や意義の理解は、学校教育の中で高まってきており、実際の成果も徐々に上がっている。しかしながら、キャリア教育を「新しい教育活動を指すものではない」としてきたことにより、従来の教育活動のままでよいと誤解されたり、「体験活動が重要」という側面のみを捉えて、職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が指摘されるなど、一人一人の教員の受け止め方や実践の内容・水準には、ばらつきのあることも課題としてうかがえる⁽¹⁾。

広島県では、キャリア教育を「幼児児童生徒一人一人がその発達課題の達成を通して、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付けることをねらいとして行われる教育活動の総体」ととらえ、学校・家庭・地域社会の連携のもと、幼児児童生徒の「知・徳・体」の調和のとれた発達を促す取組、自己実現を支援する取組などを幅広く展開している⁽²⁾。

その取組の一つとして、平成20年度に「キャリアノート」を作成し、平成21年度から全公立学校で活用している。平成29年度全公立学校における活用状況は100% (平成30年2月県教育委員会とりまとめ)であった。しかしながら、平成29年度における中学校から高等学校へ持ち上がった学校割合と中学校(中学生)から受け取った割合の差は30.0ポイントと大きな開きがあった。そこで、中学校から高等学校へと学校間の系統的な取組につながる「キャリ

アノート」の改善試案を作成し、高等学校におけるその活用例を提案したいと考えた。

I 研究の概要

1 研究の目的

本研究は、平成20年度に広島県教育委員会が作成し、平成21年度から全公立学校で活用している高等学校での「キャリアノート」の活用状況及び学校の特色を生かした効果的な活用について整理し、「キャリアノート」の改善試案の作成及びその活用例を提案するものである。

2 研究の方法

研究協力校における「キャリアノート」の活用や、中学校から送られてくる「キャリアノート」への要望について聞き取りをし、その内容を整理するとともに、「キャリアノート」の改善試案を作成する。

3 広島県での取組

広島県では、平成17年度から平成19年度までの3年間、キャリア教育実践モデル開発地域として県内5地域を指定し、開発地域における実践研究成果を基に、各校においてキャリア教育を進める上での疑問点や課題に対応できる手引書をまとめた。これが、広島県「キャリア教育実践の手引き」（平成20年、以下、実践の手引きとする。）である。実践の手引きでは、学校におけるキャリア教育のポイントを2点挙げている。

- ①キャリア教育の推進体制の改善・充実
- ②キャリア教育全体をマネジメント

学校におけるキャリア教育のポイント

この①キャリア教育の推進体制の改善・充実の手順及び留意点として、「各学校においては、校内の関係する分掌や各学年の代表者等を構成員とした委員会等、全校的な組織を設けるなど、組織的、系統的にキャリア教育を推進する体制の改善・充実が必要です。このことにより、学校が一体となってキャリア教育の推進を目指すことにつながります。」¹⁾と述べている。さらに、「中学校における進路指導の手引」（平成29年）には、資料として「キャリアノート」（図1）を「計画」と「実践」の2部構成で示している。

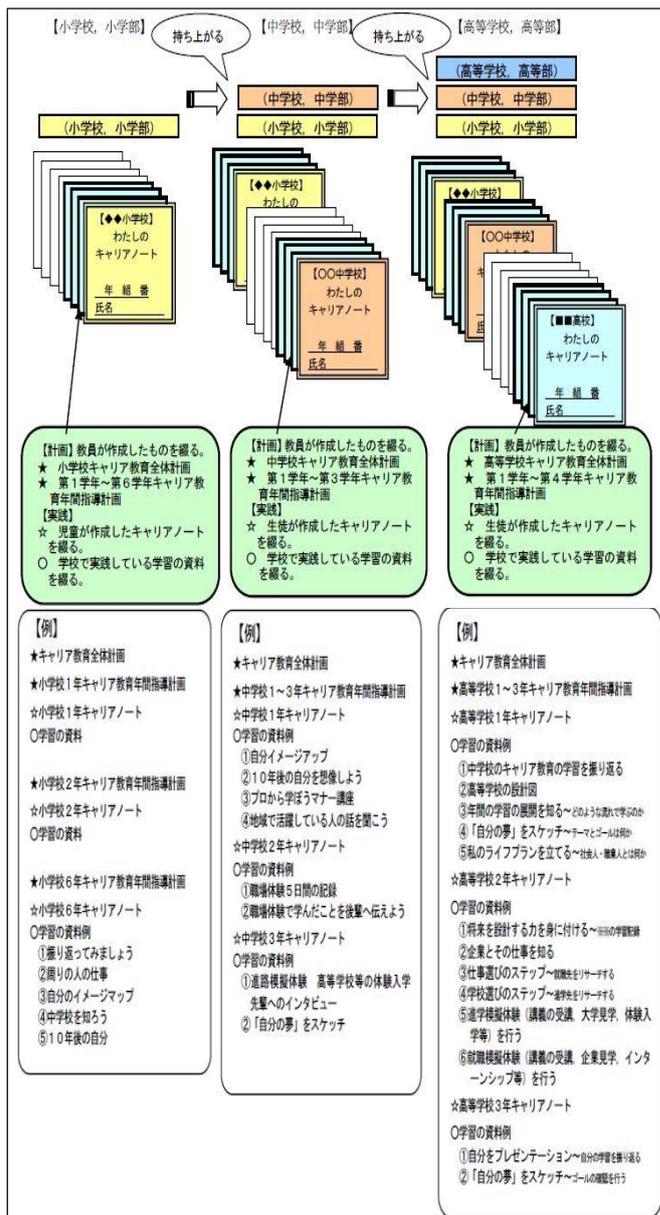


図1 「キャリアノート」²⁾

この「キャリアノート」は、キャリア教育支援会議（平成20年）が、広島県におけるキャリア教育の充実に向けて、「つながり」をキーワードに、「輝く大人をめざして 夢のスケッチブックづくり」として提言したものである。キャリア教育に係る子供一人一人の学び、経験を記録に残し綴じ込み、記録を重ねるとともに小から中、高へとバトンタッチしていくこと等の具体が盛り込まれている³⁾。

具体的には「計画」として、教員が作成したキャリア教育の全体計画及び年間指導計画を児童生徒と共有してつづり、「実践」として、児童生徒が記入し自己評価したものを教員が学習過程も含めた評価を行い、1テーマ1ページでつづるよう紹介している。

4 広島県の現状

「はじめに」で述べたように、平成21年度から全公立学校で活用している「キャリアノート」の平成29年度全公立学校における活用状況は100%（平成30年2月広島県教育委員会とりまとめ）である。その「キャリアノート」の持ち上がり及び高等学校での受け取りについて、過去4年分をまとめたものが表1である。

表1 「キャリアノート」の持ち上がり及び高等学校での受け取りについて (%)

		年度			
		26	27	28	29
A	小学校から、中学校へキャリアノートを持ち上がった学校割合※	88.6	90.6	91.1	90.2
B	中学校から、高等学校へキャリアノートを持ち上がった学校割合※	94.1	96.2	97.9	98.7
C	高等学校が、中学校（中学生）からキャリアノートを受け取った割合※※	58.0	63.8	63.7	68.7
B-C		36.1	32.4	34.2	30.0

※ 広島県教育委員会とりまとめ（当該翌年度2月）

※※広島県教育委員会調査（当該年度6月）

表1から、小学校から中学校、中学校から高等学校へ「キャリアノート」を持ち上がった学校割合は年々増加しており、平成27年度から9割台となっている。一方で、高等学校が、中学校（中学生）からキャリアノートを受け取った割合は、平成26年度から平成29年度の4年間で10.7ポイント上がったが、6割台に留まっている。また、平成29年度における中学校から高等学校へ持ち上がった学校割合と中学校（中学生）から受け取った割合の差は30.0ポイントと大きな開きがある。この実態を踏まえ、平成30年度広島県高等学校進路指導主事研修において、平成30年度入学生を対象とし、「キャリアノート」を中学校から持ち上がらせるための工夫の好事例を紹介している。

- 中高連携の会議において中学校に持参してもらい高校に引き継ぐように、管理職から中学校に連絡をした結果、市内の中学校出身のすべての生徒に「わたしのキャリアノート」を持ち上がらせることができた。
- 中学校教員が指導要録等を持参するときに「キャリアノート」を持参するように働きかけた。未提出者はまず、中学校の先生から入学時に高校に持参するよう伝えてもらい、入学当初のホームルーム活動でも担任から提出の指示を行った。
- 入学前の中学校への学校紹介の機会を利用して入学後もキャリアノートを活用することを伝達している。

中学校から持ち上がらせるための工夫

次に、平成30年度広島県教育委員会調査（6月）における広島県内公立高等学校の「キャリアノート」の活用状況をまとめたものを表2に示す。

表2 「キャリアノート」の活用状況

活用状況	課程数	割合 (%)
現在、活用していない。	0	0
広島県の作成した「キャリアノート」をそのまま活用している。	4	3.9
学校が生徒の実態に応じて「キャリアノート」を加工・修正し、活用している。	58	56.9
学校独自の教材を作成、もしくは市販の教材を活用している。	40	39.2
合計	102	—

広島県の作成した「キャリアノート」をそのまま活用しているところはほとんどなく、学校が生徒の実態に応じて「キャリアノート」を加工・修正し、活用しているか、学校独自の教材を作成、もしくは市販の教材を活用していることが分かった。また、研究協力校における「キャリアノート」の活用状況は表3のとおりであり、県と同様の傾向であることが分かる。

表3 研究力校における「キャリアノート」の活用状況

校名	「キャリアノート」の活用状況
広島県立 廿日市高等学校	学校が生徒の実態に応じて「キャリアノート」を加工・修正し、活用している。
広島県立 広島工業高等学校	学校が生徒の実態に応じて「キャリアノート」を加工・修正し、活用している。
広島県立 西条農業高等学校	学校独自の教材を作成、もしくは市販の教材を活用している。
広島県立 広島商業高等学校	学校独自の教材を作成、もしくは市販の教材を活用している。
広島県立 広島高等学校	学校が生徒の実態に応じて「キャリアノート」を加工・修正し、活用している。

ここで、「キャリアノート」を効果的に活用していくためにも、キャリア教育の基本的な在り方について整理する。

II キャリア教育の基本的な在り方

1 キャリア教育について

現在、学校教育における実践を支えるキャリア教育概念は、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年、以下、答申とする。）において示されたものである。

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」をキャリア教育と定義付け、各学校で取組を進めているところである。

藤田晃之(2014)は、答申の「キャリア教育」の核心として、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割の関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、『キャリア』の意味するところである。このキャリアは、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、子ども・若者の発達の段階や発達課題の達成と深くかわりながら段階を追って発達していくものである。また、その発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠であり、学校教育では、社会人・職業人として自立していくために必要な基盤となる能力や態度を育成することを通じて、一人一人の発達を促していくことが必要である。」³⁾と述べている。

このことから、キャリア教育について端的にいうと、キャリア発達を促す教育であるといえる。

2 キャリア教育の意義

キャリア教育を学校において実践する上で、全教職員が、その意義を認識することが必要である。答申では、次の3点を挙げている⁴⁾。

- キャリア教育は一人一人のキャリア発達や個人としての自立を促す観点から、学校教育を構成していくための理念と方向性を示すものである。
- キャリア教育は、将来、社会人・職業人として自立していくために発達させるべき能力や態度があるという前提に立って、各学校段階で取り組むべき発達課題を明らかにし、日々の教育活動を通して達成させることを目指すものである。
- キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結び付けることにより、生徒・学生等の学習意欲を喚起することの大切さが確認できる。

キャリア教育の意義

これらのことから、学校教育そのものが目指すものと、キャリア教育とが軌を一にしていることが前提として意義を示していることが分かる。

だからこそ、キャリア教育は学校の教育活動全体を通じて行われるべきものなのである。

3 キャリア教育を通して育成する「基礎的・汎用的能力」

前述のキャリア教育の定義にある「社会的・職業

的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度」のうち、その育成をキャリア教育が中核的に担うべきものとして「基礎的・汎用的能力」が示されている。

「基礎的・汎用的能力」の説明とその要素を表4に示す。

表4 「基礎的・汎用的能力」の説明とその要素⁵⁾

基礎的・汎用的能力	
人間関係形成・社会形成能力	
能力の説明	<p>多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。また、自分自身の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。</p>
要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他者の個性を理解する力 ○ 他者に働きかける力 ○ コミュニケーションスキル ○ チームワーク ○ リーダーシップ 等
自己理解・自己管理能力	
能力の説明	<p>自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。</p>
要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の役割の理解 ○ 前向きに考える力 ○ 自己の動機付け ○ 忍耐力 ○ ストレスマネジメント ○ 主体的行動 等
課題対応能力	
能力の説明	<p>仕事を上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。</p>
要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の理解・選択・処理等 ○ 本質の理解 ○ 原因の追究 ○ 課題発見 ○ 計画立案 ○ 実行力 ○ 評価・改善 等
キャリアプランニング能力	
能力の説明	<p>「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。</p>
要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ○ 多様性の理解 ○ 将来設計 ○ 選択 ○ 行動と改善 等

答申では、「これらの能力は、包括的な能力概念であり、四つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力を全ての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではないとしている。」⁴⁾と述べている。

つまり、各学校において目の前の児童生徒が将来、社会的に自立して、職業人としての役割を含む様々な役割を担い、それを果たしていくこと等を積み重ねていくために、児童生徒に必要な力とは何かを構想し、具体化する上で「基礎的・汎用的能力」を参考として活用されるべきものであると考える。

III 児童生徒の発達の段階に応じたキャリア教育

1 児童生徒の発達の段階

キャリア教育の実践では、「発達の段階に応じる」ことが特に重視されている。

文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2014）は、「『発達段階に応じる』ことは初等中等教育全体の原理であり基礎的枠組みであり、基盤となる児童生徒観ともなっている。」⁵⁾と述べている。

また、「キャリア教育は、他の教育活動同様、基本的に人間の発達過程に即して展開させるものである。言い換えれば、キャリア教育は『人間は発達する』という人間観を前提として生涯にわたって展開されるものである。」⁶⁾とも述べている。

このことから、発達の段階が意味する内容を次のように整理する⁶⁾。

- ① 発達は、年齢と学習の相互作用によって起こる現象
- ② 発達の速度や様相は、個々で異なり得るがすべての人に起こる現象
- ③ 発達は生涯続く過程
なお「過程」とは時間的経過だけを意味するのではなく、目標に向かって「前進する」という意味を含んでいる。生涯発達心理学において仮定する生涯目標とは、一人一人の自己実現であり、自己実現は一生をかけて人が目指す課題である。
- ④ 発達は成長（獲得）と喪失（衰退）とが結びついて起こる過程
- ⑤ 発達には漸次性があると同時に、連続的（蓄積的）な側面と不連続（革新的）な側面の両方が機能して起こる過程
- ⑥ 発達は個人内では可変性がある
- ⑦ 発達は社会的環境との相互作用の中で起こる

これらのことを踏まえて、児童生徒の発達の段階をキャリア発達から整理する必要がある。

2 キャリア発達を促すキャリア教育

高等学校キャリア教育の手引き（平成24年、以下、高等学校手引きとする。）では、「子どもの心と体は、発達の段階を一步一步上って行きながら成長をしていく。そうした発達過程にある子どもたち一人一人が、それぞれの段階に応じて、適切に自己と働くこととの関係付けを行い、自立的に自己の人生を方向付けていく過程、言い換えると『自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程』が『キャリア発達』である。」⁷⁾と述べている。

つまり、社会の中で自分の役割を果たしながら、

自分らしい生き方を実現していく過程がキャリア発達であり、キャリア教育はキャリア発達を促す教育であることから、児童生徒のキャリア発達を支援するものでなければならないと考える。

このキャリア発達における理解しておくべき視点について、小学校キャリア教育の手引き〔改訂版〕⁷⁾及び中学校手引き⁸⁾並びに高等学校手引き⁹⁾では、次のように述べている。

(1) 小学校

- 小学校第1学年では、入学以前の段階との連携を踏まえて小1プロブレムへの対応が重視され、小学校第6学年では小学校卒業後の段階である中学校との連携を踏まえて、中1ギャップへの対応を考える必要がある。
- キャリア発達を捉えるためには、「社会における自己の立場」や発達の段階において期待される役割を認識する必要がある。
- 担当する学年団のキャリア発達のみを視野に収めるのではなく、自分の属する学年団の前後の関係を理解することや中学校の時期におけるキャリア発達との関連を捉えることなど、時系列的な関連性を理解し、系統的な指導を行うことができるようにすることが大切である。

(2) 中学校

- 校区内の小学校の取組を把握し、その実践を踏まえて、系統的な指導を行えるよう配慮する必要がある。
 - 社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかり考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度の育成等について、体験を通じて理解を深めさせることが求められる。
 - 進路の選択・決定へと導くことが重要であることから、生徒の発達の段階を踏まえて学習を展開する必要がある。
 - 職場体験活動の直前、直後の指導だけではなく、中学校の入学時から卒業時までの長い期間の中で、生徒のキャリア発達に応じた指導を展開することが大切である。
 - キャリアに関する発達は個人差が大きいことから指導計画に基づいた活動を展開しながら、生徒個々人の発達に対応するための指導を充実させる必要がある。
- ### (3) 高等学校
- 自らの将来のキャリア形成を自ら考えさせ、選択させることが重要になる。

○ 自ら学び自ら考えさせるために「学ぶことの意義」や「学ぶことの価値」を知らせるとともに、自己の判断力や価値観を創る上で体験活動からの学びは重視したい。

また、文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2014）は、「キャリア教育の実践において、キャリア発達段階を基本的な考え方とする理由は、キャリア教育の目標である『社会人・職業人として求められる基礎的・汎用的能力の育成』は『年齢と学習』によって連続的に徐々に発達させられるものであるという人間の発達のメカニズムに注目したことにある。」⁹⁾と述べている。

これらのことから、児童生徒のキャリア発達は段階をおって育成されるという理解のもと教育活動を展開していくことが、児童生徒の発達を踏まえたキャリア教育につながるものと考えられる。そこで、児童生徒のキャリア発達段階とキャリア発達課題を整理することとする。

3 キャリア発達段階とキャリア発達課題

文部科学省「小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育推進の手引」（平成18年、以下、推進の手引とする。）を基に作成された小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達段階とキャリア発達課題を表したものが図2である。

このように長期的な視点から児童生徒の発達を理解し、学校間連携につないでいくことが大切である。

また、「キャリアノート」の持ち上がりについて、本県の中学校から高等学校への学校間の系統的な取組といった点で課題があるといった実態を踏まえ、中学校及び高等学校段階のキャリア発達課題について整理をしていく。

中学校は、自我の目覚めや独立の欲求が高まるとともに、人間関係も広がり、社会の一員としての自分の役割や責任の自覚が芽生えてくる時期でもある。また、他者とかかわり、様々な葛藤や経験の中で、自らの人生や生き方への関心が高まり、自分の生き方を模索し、夢や理想をもつ時期である。一方で、高等学校入学者選抜をはじめとする現実的な進路の選択を迫られ、自分の意志と責任で決定しなければならない時期でもある。

したがって、中学校段階では社会における自らの役割や生き方・働き方等について、しっかりと考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度の育成等について、体験を通じて理解を深めさせ、進路の選択・決定へと導くことが重要である⁽¹¹⁾。

表5は、推進の手引を基に作成された中学校段階におけるキャリア発達課題の例である。

表5 中学校段階におけるキャリア発達課題の例⁹⁾

第1学年	第2学年	第3学年
<ul style="list-style-type: none"> 自分の良さや個性が分かる。 自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする。 集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。 将来に対する漠然とした夢やあこがれを抱く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する。 社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的にとらえる。 将来の夢を達成する上での現実問題に直面し、模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己と他者の個性を尊重し人間関係を円滑に進める。 社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう。

続いて、高等学校は、自分の将来における生き方や進路を模索し、大人の社会でどう生きていくかという課題に出会う時期である。

高等学校段階におけるキャリア発達の特徴の例として、中学校段階のような第1～3学年の学年段階で区分するのではなく、入学から在学期間半ば頃までと、その後、卒業を間近にする頃までの二つの段階で区分し、まとめられている（次頁表6）。

就学前	小学生	中学生	高校生	大学・専門学校・社会人
	進路の探索・選択にかかわる基盤形成の時期 <ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 	現実的探索と暫定的選択の時期 <ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期 <ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての勤労観・職業観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加 	

図2 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達段階とキャリア発達課題⁽¹⁰⁾

表6 高等学校段階におけるキャリア発達の特徴の例¹⁰⁾

入学から在学期間半ば頃まで	在学期間半ば頃から卒業を間近にする頃まで
<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する。 ● 新たな環境の中で自らの役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ● 学習活動を通して自らの勤労観、職業観について価値観形成を図る。 ● 様々な情報を収集し、それに基づいて自分の将来について暫定的に決定する。 ● 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、検討する。 ● 将来設計を立案し、今取り組むべき学習や活動を理解し実行に移す。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他者の価値観や個性を理解し、自分との差異を見つめつつ受容する。 ● 卒業後の進路について多面的・多角的に情報を集め、検討する。 ● 自分の能力・適性を的確に判断し、自らの将来設計に基づいて、高校卒業後の進路について決定する。 ● 進路実現のために今取り組むべき課題は何かを考え、実行に移す。 ● 理想と現実との葛藤や経験等を通し、様々な困惑を克服するスキルを身に付ける。

高等学校手引きでは、「ここに例示される特徴は、様々な調査研究等の成果を踏まえて整理されたものであるが、それぞれの学校が立地する地域の状況、学科や設置形態の特色、生徒の実態などによって、実状とのずれが生じることは当然である。高校生期のキャリア発達の固定的な標準としてではなく、キャリア発達の視点から高校生を理解する上での参考資料、あるいは学年ごとの目標設定のための議論の契機として活用されるべきだろう。」¹¹⁾と述べられている。

これらのことから、キャリア発達段階を踏まえ、系統性のある指導を行うためには、前頁図2を参考に長期的な視点から児童生徒の発達を理解し、学校間連携につないでいくことが大切である。それとともに、同一校種においても学年段階のつながりを十分意識しながら取り組むことがキャリア発達を促す上でも必要であると考えられる。

IV キャリア教育と進路指導

ここで、キャリア教育と、学習指導要領上、中学校及び高等学校（中等教育学校、特別支援学校中学部及び高等部を含む）に限定された教育活動である進路指導について整理する。

キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書（平成16年）では、「進路指導は、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択決定する能

力・態度を身に付けることができるよう、指導・援助することである。定義・概念としては、キャリア教育との間に大きな差異は見られず、進路指導の取組は、キャリア教育の中核をなすといえることができる。」¹²⁾と述べられており、キャリア教育と進路指導との間には概念的に大きな差異はないと指摘している。また、答申においても、高等学校における進路指導を事例としながら、「進路指導のねらいは、キャリア教育の目指すところとほぼ同じ」との見解が示されている。

つまり、進路指導は教育活動全体を通じ、計画的、組織的に行われるものであり、この点においてキャリア教育との差異はないことが分かる。一方で、高等学校手引きでは、「実際に学校で行われている進路指導については、進路指導担当の教員と各教科担当の教員との連携が多く为学校において不十分であることや、一人一人の発達を組織的・体系的に支援するといった意識や姿勢、指導計画における各活動の関連性や系統性等が希薄であり、したがって進路指導は、子どもたちの意識の変容や能力や態度の育成に十分結び付いていないなどといった指摘がある。」¹³⁾と述べられており、入学試験・就職試験に合格させるための支援や指導に終始する実践（いわゆる「出口指導」）はその典型例と言えらる言及している。

このように、理念からかけ離れた「進路指導（＝出口指導）」と、キャリア教育との混同は回避しなくてはならないと考える。

V 学校の特徴を生かした研究協力校での「キャリアノート」の活用

本研究における5校の研究協力校の学校の特徴と「キャリアノート」の活用について整理し、中学校までの取組を高等学校で活かせる「キャリアノート」の改善試案を作成したいと考えた。

1 学校の特徴を生かした「キャリアノート」の活用

(1) 広島県立廿日市高等学校

平成27年度に創立100周年を迎えている。校是として掲げている「礼節」を重んじ、「勤勉」を尊び、他者との「協同」を大切にすることを継ぎながら、グローバル・ローカルに活躍できる人材の育成を目指した教育活動を展開している。

全日制課程では、平成26年度から3年間、広島県教育委員会から「『学びの変革』パイロット校」に

指定され、教育活動全般において、アクティブ・ラーニングの考え方を取り入れ、深い思考力の育成・向上を目指した横断的・総合的な学びの創造についての研究に取り組んでおり、その成果は進路実績にも着実に表れている。また、1学年7学級規模程度で800人を超える生徒の大半（平成29年度：85.1%）が部活動に所属している。県大会はもとより中国大会、全国大会に出場するなど、優れた成績を収めている部活動もあり、公民館まつりに参加し、得意技を披露するなどの地域貢献をしている部活動もある。さらに、姉妹校協定を結んでいるニュージーランドのSpotswood Collegeとは、留学や短期研修による相互の訪問、インターネットによるリアルタイムでの通信等で、相互交流を実現している。

表7は学校の特色である。

表7 広島県立廿日市高等学校の特色

課程	全日制・定時制
学科	普通科
ミッション	「高い志と確かな実践力」を培い、しっかりとした次代の担い手を育成する
ビジョン	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人ひとりが高い志を持ち、仲間と共に日々目標に挑戦し続け、夢や希望を叶えることができる学校 2 生徒一人ひとりが将来の自立に向け、基盤となる能力や態度を身に付けることができる学校 3 地域との連携を大切にし、地域社会の期待と信頼に応えることができる学校
目指す生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 〈礼節〉 ・自らの在り方、生き方に責任を持てる生徒 〈勤勉〉 ・努力を惜しまず自己実現をめざす生徒 〈協同〉 ・他者ととともに新たな価値を創造できる生徒

また、各教科・科目等のシラバスを各学年1冊にまとめ、ホームページ上にも公開し、生徒自身が年間を見通し学習する内容を把握することができるようにしている。

各教科・科目等に掲載されている「学習を進める上でのポイントや学習方法」や「学習者へのメッセージ」を参考に、生徒が自ら考えることのできる環境を整えており、主体的な学びにつながるような工夫がされている。

キャリア教育の要である特別活動〔ホームルーム活動〕において、「学習者へのメッセージ」として、次のように示されている。

高校生活の基本的集団であるホームルームにおいて、週1回のLHRの時間を中心に、当面する課題に対応する次に示すような活動を行います。皆さんの中に望ましい人間関係を形成し、学校生活の充実と向上を図るよう努めましょう。

- (1) 学校での集団・生活づくりについて
- (2) 健康と安全について
- (3) 学業と進路について

特別活動〔ホームルーム活動〕における「学習者へのメッセージ」

上記、(3)学業と進路について、第1学年では進路選択に関わる内容や進路講演会（年2回）等が行われている。また、6月には文理及び科目選択説明会を実施している。これは、文系もしくは理系を選択するに当たって、生徒自身が自己決定できるよう、夏季休業前に設定をしている。さらに、生徒の実態を踏まえるとともに、大学入試改革を見据えて、新たに開発した「私の活動記録」（図3）を「キャリアノート」として活用している。

廿日市高等学校第1学年（平成30年度）			
私の活動記録			
1年（ ）組（ ）番 氏名（ ）			
			1年1学期（7月）
1	委員会活動	●高校内における生徒会、委員会、クラス活動等の組織活動	【活動名】 【取組の具体】
2	部活動 ・スポーツ活動 ・文化芸術活動	●大会への出場歴 ●記録 ●所属、役割	【活動名（正式な試合名等）】 【取組の具体】
3	資格検定試験	●受験日、結果	【活動名（正式な検定名等）】 【取組の具体】
4	課外活動	●看護・保育体験 ●介護施設訪問 ●留学・海外経験 ●スピーチコンテスト等	【活動名（正式名称等）】 【取組の具体】
5	探究活動	●桜尾に関すること ・関連する記事のスクラップ ・校外へのインタビュー ・学習会	【活動名】 【取組の具体】
6	その他 校外活動	●学校外クラブ活動 ●各種ボランティア	

図3 第1学年 特別活動〔ホームルーム活動〕における「私の活動記録」

(2) 広島県立広島工業高等学校

平成29年度に創立120周年を迎えている。広島県立広島工業高等学校の特色を表8に示す。

表8 広島県立広島工業高等学校の特色

課程	全日制
学科	機械科, 電気科, 建築科, 土木科, 化学工学科
ミッション	1 科学技術創造立国を支える, 豊かな心を伴った工業人を育成する。 2 拠点校として工業教育の牽引的役割を果たす。
ビジョン	1 夢への挑戦ができる学校 2 感性を磨き, 創造力豊かな人材を育成する学校 3 規律と礼儀を重んじ, 自立心豊かな人材を育成する学校 4 「文武両道」勉学とクラブ活動の両立する学校
目指す生徒像	【社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を有する生徒】 ○自ら考え行動し, 誠実で思いやりがある。 ○我慢強く, 自力で乗り越えていこうとする。 ○自ら知恵を発揮し, 創意工夫を凝らし, 物事を改善しようとする。 ○常に本当のことや正しいことを追究し, 物事の本質を捉えることができる。

広島県の工業教育の拠点校として, 次の3点を目指し, 取組を進めている。

- 工業の分野において, 将来のスペシャリストを育成する。
- 工業の分野において, 専門教科における基礎・基本を徹底するとともに, より高度な知識・技術を身に付け, それらを生かした進学・就職のできる人間を育成する。
- 県内の小・中・高等学校における職業教育センター的な役割を担う。

目次	
第1部 進路LHR 編	第2部 進路データ 編
平成30年度入学者 キャリア教育指導計画 3	◎公務員について 38
1. 高校生になって 4	◎資格ガイド 43
2. 進路学習のために 7	◎大学入試 49
3. 自己理解 10	◎職業能力開発短期大学校入試 53
4. 進路設計 15	◎専門学校(専修・各種学校)入試 54
5. 進路研究 18	◎大学推薦入試対策 59
6. 資格と免許 30	◎広島県の大学・短大・専門学校 66
7. 体験学習の意義 34	◎大学入試学習方法 70
	◎小論文・作文 76
	◎平成29(2017)年度進路状況一覧 79
第3部 先輩の足跡 編	

図4 「キャリアノート」目次(一部抜粋)

「キャリアノート」は, 「わたしのキャリアノート(県工版)～進路の手引～平成30年度版 第〇学年用」として, 学年ごとに冊子にし, 生徒がいつでも見ることができるようにしている。また, その内容は, 図4に示すように三部で構成されている。

進路LHR実施に当たっては, 進路指導部から学習指導案(略案)を提示し, 授業後, 五つの学科のそれぞれの担任から出された気付きを成果及び課題として集約し, 次年度「キャリアノート」に反映させるなど, 改善に活かしている。

また, 目次の次のページには, 図5のように各年度入学者の3年間のキャリア教育指導計画を掲載し, どの時期に, この「キャリアノート」を活用するのか, 特別活動等で基礎的・汎用的能力のどの能力を付けようとしているのかを, 教職員だけでなく, 生徒とも共有を図っている。

学年	月	学校行事	教科・学科	総合的な学習の時間	特別活動	その他 (関連・連携する事項及びわたしのキャリアノート(進路)活用計画)
1学年 (1年次)	4	入学式 対面式・クラブ紹介・新入生オリエンテーション	【国語】言語技術によるコミュニケーションスキルの習得(人間関係形成・社会形成能力) 【工業】工業基礎オリエンテーション(課題対応能力, キャリアプランニング能力)		入学式(入学式の意義, 感謝のこころ, 志を培う) 高校生活 オリエンテーション(人間関係形成・社会形成能力, 自己理解・自己管理能力, 課題対応能力) 集団宿泊訓練(人間関係形成・社会形成能力, 自己理解・自己管理能力, 課題対応能力)	わたしのキャリアノート
	5	集団宿泊訓練 生徒総会			集団宿泊訓練(人間関係形成・社会形成能力) 資格取得について(キャリアプランニング能力, 自己理解・自己管理能力, 人間関係形成・社会形成能力)	
	6	性教育講演会 犯罪防止教室 産科保健指導	【工業】事業所見学(人間関係形成・社会形成能力, 課題対応能力, キャリアプランニング能力)			計算技術検定, 情報技術検定, 危険物取扱者, 試験受験指導 わたしのキャリアノート 一般常識テスト
3学年 (3年次)	1	地域清掃活動 学科内課題研究発表会	【家庭】消費者として(人間関係形成・社会形成能力, 課題対応能力)	学科内課題研究発表会(人間関係形成・社会形成能力, 課題対応能力)	地域清掃活動(環境美化意識, 奉仕活動の意義, 地域の方々への感謝) 金融トラブル回避講習(人間関係形成・社会形成能力, 課題対応能力) 進路体験報告書作成(キャリアプランニング能力, 自己理解・自己管理能力, 人間関係形成・社会形成能力, 課題対応能力)	情報技術検定受験指導 わたしのキャリアノート
	2	学習成果発表会		学習成果発表会(人間関係形成・社会形成能力, 課題対応能力)		
	3	卒業式			卒業式(卒業式の意義, 感謝のこころ)	

図5 「キャリアノート」平成30年度入学者 3年間のキャリア教育年間指導計画(一部抜粋)

さらに, 平成30年度キャリア教育全体計画に, 「やるべきことをやったかどうか」を評価するアウトプット評価と, 「身に付けさせたい力がついたかどうか」を評価するアウトカム評価へ, 「キャリアノート」の活用を位置付けている。

(3) 広島県立西条農業高等学校

平成22年度に創立100周年を迎えている。平成24年度から5年間（第1期指定）、文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール（以下、SSHとする。）」の指定を受け、「生命、食、環境、エネルギー等の分野における問題解決能力を高め、持続可能な社会の形成と発展を担う科学技術系人材を育成すること」を目的として、研究開発に取り組んできた。さらに、平成29年度から5年間（第2期指定）、SSHの指定を継続して受け、「農業・食料問題を科学技術の力で解決するグローバル人材育成プログラム」の研究開発を行っている。県内随一の広大な校地や最新の施設設備を誇る教育環境を最大限活用し、「生命」を教材とした幅広い研究領域に学校の特徴（表9）を生かし、取り組んでいる。

表9 広島県立西条農業高等学校の特徴

課程	全日制
学科	園芸科、畜産科、生活科、農業機械科、緑地土木科、生物工学科、食品化学科
ミッション	100年を超える伝統と地域社会からの熱い信頼を基盤として、農業高校としての特色を生かしたSSH研究開発を推進し、科学技術系のグローバル人材を育成する。
ビジョン	<ol style="list-style-type: none"> 1 農学・生命科学等の高度な専門教育の内容について、主体的に学ぶことができる。 2 部活動で全国大会への出場を目指し、心身を鍛えることができる。 3 社会に出て活躍するために、何事に対してもやり遂げる力を身に付けることができる。 4 自らの興味関心に基づいて3年間学んだことが生かして、国公立大学進学をはじめとした進路目標を確実に実現できる。
目指す生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な基盤を身に付けた西農生 ・生命を慈しみ、社会に貢献する西農生 ・海外連携により国際性を身に付けた西農生

「キャリアノート」は、「キャリアノート 平成〇年度入学生用」として、3学年分の内容を1冊にまとめている。「キャリアノート」を開くと、どの年度の入学生用にも「1st Grade HOP」「2nd Grade STEP」「3rd Grade JUMP」と明示された色上質紙で各学年で取り組む内容が仕切られており、3年間を見通し、生徒が継続して活用できるようにしている。

また、第1学年、第2学年については学年の最後に、「1年間のキャリア学習を振り返りましょう」と題したページを設けている（図6）。

図6 「キャリアノート」平成30年度入学生用「1年間のキャリア学習を振り返りましょう」

図6には、「1 この1年を振り返ってみましょう。」「2 進路・職業について考えてみましょう。」「3 現在の進路希望」「4 担任からのアドバイス」を記入でき、生徒自身が自分の思いを振り返ることができるようになっている。

さらに、平成30年度キャリア教育全体計画のアウトカム評価に「キャリアノート」の活用を位置付けている。

(4) 広島県立広島商業高等学校

平成22年度に創立110周年を迎え、広島県の商業教育の拠点校として、取組を進めている。表10に学校の特徴を示す。

表10 広島県立広島商業高等学校の特徴

課程	全日制
学科	商業科, 国際経済科, 会計科, 情報システム科
ミッション	商業専門教育の拠点校として、商業の専門的・先進的な教育活動を通して将来への志を育み、グローバル化や少子高齢化が進む社会、地方の創生に貢献できる資質・能力を身に付けたビジネス・スペシャリストを育成する。
ビジョン	<p>1 一人一人の夢や志を育み、将来に向けて自己の可能性を切り拓いていく確かな学力を育成する日本一の商業学校。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室での学びを実体験の中で生かすことを通して、経験・体験に裏付けられた知識・技能を習得させる。 ・課題発見・解決学習を重視し、思考力・判断力・表現力を発揮して商業における探求的な学習態度を育成する。 ・知識・技能の専門性を高め、将来のキャリアアップを図るため、高度資格取得に積極的に挑戦させる。 <p>2 自主的に考えて行動し、新たな価値の創造に果敢に挑戦しようとする資質や態度を育てる日本一の商業高校。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広商行動3則「時を守り、場を清め、礼を正す」を徹底し、豊かなコミュニケーション力とビジネス・マナーを育てる。 ・教室での学びを、広商デパートをはじめとする実体験に活かすことを通して、企画力、創造力、実践力を培う。 ・部活動を奨励し生徒会活動を活性化させ、自主・自律及び協働の精神と気力や忍耐力を養う。 <p>3 使命感あふれる教職員の組織的な取組と豊富な教育資源の活用により、高い教育力を発揮できる日本一の商業高校。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織マネジメントが機能しており、伝統を守りつつ新しい視点で改善・改革を進めようとする教職員の意欲に満ちている。 ・生徒一人一人が3年間の学びのストーリーを描くことのできる進路指導、キャリア教育が充実している。
目指す生徒像	<p>(1) 高い志を持った有為な商業人として、何事にも誠実に取り組み、進取の気性を抱いて未来を切り拓こうとする生徒。</p> <p>(2) 広い視野に立って、よく考え、適切に判断し、他者と力を合わせて新たな可能性や価値を創造しようとする生徒。</p> <p>(3) 礼節を重んじ、豊かなコミュニケーション力を身に付け、自己の個性や能力を実社会の中で活かそうとする生徒。</p>

平成30年度全国商業高等学校協会主催の全国大会四競技選抜広島県大会の全競技（珠算部、簿記部、情報処理部、ワープロ部）で全国大会出場を決めている。また、学校のホームページ上に「情報」「珠算・電卓」に関する学校独自の自学自習教材を掲載し、主体的な学びを促している。

「キャリアノート」は、「進路ノート」として、各年度に各学年用の冊子を活用している。その内容は、「はじめに」「進路学習LHR」「進路関連資料」の三つで全学年構成されている。これに加え、第1学年では「ビジネスマナー」、第3学年では「小論文」「就職編」「進学編」の資料が掲載されている。また、該当学年だけでなく、3年間のキャリア教育年間指導計画を掲載し、生徒自身が見通すことができるようにしている。さらに、第1学年の「はじめに」の中には、高校生活3年間の計画を立てられるように「広商学びのストーリー」を設けている（図7）。その次のページには「中学校を振り返ってみよう」と題し、中学時代の「キャリアノート」の内容を転記できるようにしている。

広商学びのストーリー 高校生活3年間の計画を立ててみよう。

広商で身に付けた資質・能力

1年
2年
3年

学年	1学期	夏休み	2学期	冬休み	3学期
1	目標				
	行事等	宿泊研修(4月) 合唱祭(6月)		体育祭(9月) 広商デパート(12月)	体験学習発表会(1月)
	学習	評定平均値 【目標】【実績】		評定平均値 【目標】【実績】	評定平均値 【目標】【実績】
	資格	全商珠算電卓 3級 全商ビジネス文書 3級		全商珠算電卓 2級 全商英語 3級 全商ビジネス文書 2級	全商情報処理 3級 全商英語 2級 全商商業経済 3級
	特記事項				
2	目標				
	行事等	合唱祭(6月)		体育祭(9月) 修学旅行(11月) 広商デパート(12月)	体験学習発表会(1月)
	学習	評定平均値 【目標】【実績】		評定平均値 【目標】【実績】	評定平均値 【目標】【実績】
	資格	全商珠算電卓 1級		全商情報処理 2級 全商英語 2級 全商ビジネス文書 1級	全商簿記 1級 全商商業経済 2級
	特記事項				
3	目標				
	行事等	合唱祭(6月)		体育祭(9月) 広商デパート(12月)	体験学習発表会(1月)
	学習	評定平均値 【目標】【実績】		評定平均値 【目標】【実績】	評定平均値 【目標】【実績】
	資格			全商英語 1級	
	特記事項				

図7 平成30年度第1学年用「広商学びのストーリー」

また、「進路関連資料」には進学・就職した先輩から「進路選択・決定の時期・決め手・理由」「進路実現に向けて取り組んだこと」「後輩へのアドバ

イス・メッセージ」の項目で、先輩から後輩への一言が掲載されている。

さらに、平成30年度キャリア教育全体計画のアウトカム評価に「キャリアノート」の活用を位置付けている。

(5) 広島県立広島高等学校

広島県立としては初めての併設型中高一貫教育校として開校し、平成30年度に15年目を迎えている。

平成26年度に広島県のグローバル教育加速プロジェクト事業、平成27年度から文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」事業の指定を受け、持続可能な社会の構築に貢献できるグローバル・リーダーの育成を目指している。そのグローバル・リーダーに必要なコンピテンシーとして「高い志」「深い知識・技能」「創造力」「協働力」「英語力」「批判的思考力」を教員・生徒が共通認識をもって取り組んでいる。

さらに、グローバル・コア・コンピテンシーに基づくカリキュラム開発や、グローバル・リーダー育成海外研修（フィリピン、オーストラリア、台湾）等を実施し、語学力や問題発見・解決能力等の国際的な素養を身に付けたグローバル・リーダーの育成を推進している。学校の特徴を表11に示す。

表11 広島県立広島高等学校の特徴

課程	全日制
学科	普通科
ミッション	全人教育を実現し、本県教育を先導する学校 挑戦し続ける生徒・学校：学んでよかったと思える学校
ビジョン	1 知性・感性・意志のバランスがとれた生徒を育成する学校～全人教育を実現する学校～ 【高い知性】学校は学びの場～深い知識・技能を持ち、批判的思考力や豊かな創造力を求め、学び続ける生徒の育成～ 【豊かな感性】学校は自らを広げ深める場～他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し協働できる生徒の育成～ 【強い意志】学校は自らを高める場～高い志を持ち、主体的に学び行動する生徒の育成～ 2 果敢に挑戦し続ける生徒・学校～全生徒の進路希望を実現する学校～ 3 全教職員の資質・能力向上を推進する学校～人材育成プログラムが機能している学校～
目指す生徒像	グローバル化時代に活躍できる人材

今年度、新規に作成した「キャリアノート」の一部が図8である。

県立15期生1年1学期のポートフォリオ 1年()組()番()			
授業・家庭学習	生活習慣・交友関係等	学校行事 (修学旅行・文化祭・遠足・体育祭など)	部活動・学校外活動 (スポーツ・ボランティア・アカデミック活動など)
当初の目標	当初の目標	当初の目標	当初の目標
行ったこと・自己記録・成果物・役割など	行ったこと・自己記録・成果物・役割など	行ったこと・自己記録・成果物・役割など	行ったこと・自己記録・成果物・役割など
自己の変容・できるようになったこと	自己の変容・できるようになったこと	自己の変容・できるようになったこと	自己の変容・できるようになったこと
なぜできたのか	なぜできたのか	なぜできたのか	なぜできたのか
課題点・できなかったこと	課題点・できなかったこと	課題点・できなかったこと	課題点・できなかったこと
なぜできなかったのか	なぜできなかったのか	なぜできなかったのか	なぜできなかったのか
次の目標・そのために日々すべきこと	次の目標・そのために日々すべきこと	次の目標・そのために日々すべきこと	次の目標・そのために日々すべきこと

図8 県立15期生1年1学期のポートフォリオ（表面）

裏面には「資格・検定/表彰・顕彰」「生徒会・委員会」「探究活動（総合的な学習の時間・研究活動など）」「学校行事（式典・遠足・文化祭・校内コンテストなど）」「部活動・学校外活動（スポーツ・ボランティア・アカデミック活動など）」の項目を設け、「当初の目標」「行ったこと・自己記録・成果物・役割など」「自己の変容・できるようになったこと」「なぜできたのか」「課題点・できなかったこと」「なぜできなかったのか」「次の目標・そのために日々すべきこと」を記入できるようにしている。この「キャリアノート」を用い、三者懇談で生徒に語らせていきたいと準備したものである。

また、第1学年・第2学年の4月に実施する個人面接では、資料の一つとして「キャリアノート」を活用しており、平成30年度キャリア教育全体計画のアウトカム評価へも「キャリアノート」の活用を位置付けている。

このように、研究協力校5校の取組から学校の特徴を生かした「キャリアノート」を作成（加工・修正を含む）し、キャリア教育全体計画及び年間指導計画等に位置付け活用していることがうかがえる。

いずれの研究協力校においても、高等学校におけるキャリア発達段階を踏まえた取組がなされており、キャリア教育の中核をなす「生き方の指導」で

ある進路指導についても組織的・系統的な取組となっていることが分かる。

では、小学校・中学校とキャリア教育に係る一人一人の学び、経験を記録に残し綴じ込み、記録を重ねてきた「キャリアノート」を高等学校につなぎ、効果的に活用するためには、どのような工夫が必要なのだろうか。

2 中学校から送られてくる「キャリアノート」への要望

広島県教育委員会による市町教育委員会への活用状況調査における「キャリアノート」の改善点等への記述に、「小・中・高と系統立てて活用していくためにも、高等学校等でどのように活用されているのか知りたい。」「高等学校での活用状況や意見を基に（「キャリアノート」の）内容を検討する必要性を感じている。」という意見があった。言い換えれば、高等学校での活用状況等を把握することで、改善の視点を中学校で活用している「キャリアノート」に反映するなどの工夫を図ることができ、小学校・中学校で活用している「キャリアノート」を高等学校につないでいけると考えた。

そこで、研究協力校へ中学校から送られてくる「キャリアノート」の活用状況や「キャリアノート」への要望を聞き取ったところ、次のような意見が挙げられた。

○貴重な資料ではあるが、全てを読み切ることができないので、例えばA4 1枚にするなどコンパクトにしてはどうか。

○内容ではないが、送られてくる「キャリアノート」の形態がサイズやファイル（フラット、クリア等）、綴じ紐でくくるなど様々である。なかには厚紙に「キャリアノート」が張り付けられたものもあり、ボリュームも様々である。であるから、そのままを授業で活用するのは難しい。

○4月に担任が見て、生徒に返却し、保管するようにしている。学校によって差があるが、かなりボリュームがあるので全てに目を通すことができていない現状である。中学校での学びをA4 1枚ものでまとめることができないか。そうすれば、届いたキャリアノート1冊の1枚1枚を見ることができないにしても、そのA4 1枚にまとめられたものには目を通すことは可能である。

○中学校からの「キャリアノート」受け取りが100%でない状況の中で、そのものを授業で活用することが難しい。しかしながら、生徒がいつでも見ることができるようしておくことは必要であると考え

○「キャリアノート」には、生徒の小・中学校時代の思いや考えが書かれているので、指導に当たる際（子供の背景を知ることができるので）、より生徒理解に基づいた指導ができると考える。しかし、現状で言えば、「キャリアノート」の必要性を十分に感じきれていないところがある。例えば、ノートという存在ではなくなるかもしれないけれど、小学校から様式を揃えて、デジタル化にしてはどうだろうか。

中学校から送られてくる「キャリアノート」への要望

各研究協力校における学校の特色を生かした「キャリアノート」の効果的な活用を大切にしつつ、中学校から送られてくる「キャリアノート」への要望を踏まえ、各高等学校における効果的な「キャリアノート」の活用に向けた「キャリアノート」改善試案を作成し、その活用例を提案していくこととする。

VI 「キャリアノート」改善試案

広島県の取組や現状、学校の特色を生かした研究協力校での「キャリアノート」の活用等について、ここまで述べてきたが、「キャリアノート」改善試案作成に当たって、国の動向を整理しておく。

1 国の動向

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年）において、「小・中・高等学校を見通した、かつ、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の充実を図るため、キャリア教育の中核となる特別活動について、その役割を一層明確にする観点から、小・中・高等学校を通じて、学級活動・ホームルーム活動に一人一人のキャリア形成と実現に関する内容を位置付けるとともに、『キャリア・パスポート（仮称）』の活用を図ることを検討する。」¹⁴⁾と述べられている。

この「キャリア・パスポート（仮称）」は、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びの過程を記述し、振り返ることのできるポートフォリオとしての機能をもつ教材として議論され、現在、「キャリア・パスポート」導入に向けた調査研究協力者会議が開催されているところである。第3回において「キャリア・パスポート」の定義を次のように整理している。

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

「キャリア・パスポート」の定義⁽¹²⁾

また、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説特別活動編において、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用した活動を行うことの三つの意義を示している⁽¹³⁾。

- 一つ目は、高等学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になることである。
- 二つ目は、小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めることに資するという点である。
- 三つ目は、生徒にとっては自己理解を深めるためのものとなり、教師にとっては生徒理解を深めるためのものとなることである。

生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用した活動を行うことの三つの意義

なお、一つ目の意義の例示として、各教科・科目等における学習や特別活動において学んだこと、体験したことを振り返り、気付いたことや考えたことなどを適時蓄積し、それらをホームルーム活動においてまとめたり、つなぎ合わせたりする活動を行うことにより、目標をもって自律的に生活できるようになったり、各教科・科目等を学ぶ意義についての自覚を深めたり、学ぶ意欲が高まったりするなど、各教科・科目等の学びと特別活動における学びが往還し、教科・科目等の枠を越えて、それぞれの学習が自己のキャリア形成につながっていくことが期待されると述べられている。

この三つの意義の中でも、とりわけ、二つ目の意義で述べられている系統的なキャリア教育という視点でいうと、広島県においては「キャリアノー

ト」を活用して、小学校、中学校、高等学校の各段階における学習や生活を振り返って蓄積していることから、その取組を大切にしつつ、中学校から高等学校へと学校段階を越えて活用できる「キャリアノート」の改善試案としていくことが必要であると考えられる。また、前述表2 広島県内公立高等学校の「キャリアノート」の活用状況や学校の特色を生かした研究協力校での「キャリアノート」の活用を踏まえると、学校段階間をつなぐためには中学校における「キャリアノート」の改善試案作成が急務であると考えられる。

そこで、中学校から送られてくる学びの過程を記述し、振り返ることのできるポートフォリオとしての機能をもつ「キャリアノート」への要望として挙げられた研究協力校の意見を踏まえ改善試案を作成することとする。

2 「キャリアノート」改善試案作成及び活用

「キャリアノート」改善試案作成にあたっては、広島県教育委員会ホームページに掲載されている中学校第1～3学年の教員用「キャリアノート」（以下、広島県「キャリアノート」とする。）の吹き出し等に記載された作成の意図や留意事項の内容を参考とした（次頁図9）。また、中学校3年間を振り返ることから改善試案の対象学年は中学校第3学年とする。

学校段階を越えて、学習や生活を振り返って蓄積しているものを活用できるように考えた「キャリアノート」（試案）の構成と作成の視点を表12に示す。

表12 「キャリアノート」（試案）の構成と作成の視点

構成	作成の視点
1 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校3年間の成長 ・これまで蓄積している「キャリアノート」が手掛かりとなること ・学校で育成を目指す資質・能力 ・頑張ったこと、そうでなかったこと（課題）、課題克服に向けて取り組むこと
2 考える	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢 ・その夢の実現に向けて頑張っていること
3 振り返って感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・上記1・2を振り返り、感じたこと ・担任（保護者）からのコメント ・担任（保護者）のコメントを読んで、感じたこと、考えたこと等

3年 組 番 氏名 ()

生徒の実態に合わせ、必要に応じて具体的な場面を挙げながら振り返らせましょう。

1 振り返ってみましょう。

自分の個性	自分の個性やよさを知っています。		
新しい集団	新しい集団に入ると、積極的に話し掛けて人間関係をつくります。		
将来進みたい学校や職業	将来進みたい学校や、就きたい職業について調べています。		
働くこと	働くことの大切さを知っています。		
どんな大人になりたいか	どんな大人になりたいか考えています。		
自分にふさわしい職業	自分にふさわしい職業について調べています。		
自分の個性や興味・関心	自分の個性や興味・関心のあることに基づいて、中学校卒業後の進路を考えています。		
学習態度	学習時には、自分で課題を見付け、積極的に解決しています。		

2 振り返って、思ったことを書きましょう。

上記8項目についての振り返りの結果や持ち上がったキャリアノートを見て、思ったことを書かせましょう。

3 考えてみましょう。

あなたのよいところやがんばっているところはどんなところですか。

自己肯定感を高めるための項目です。思いつかないようであれば「あなたのいいところは～だと思うよ。」などの言葉かけをしましょう。

高等学校等訪問・職場訪問について書きましょう。

月 日 場所 ()

・訪問して分かったこと

高等学校等訪問・職場訪問について振り返り、どんなことを知り、どのように思ったかについてまとめるための項目です。内容及び質問項目は学校の実態や体験内容に合わせて変更してください。

・思ったことや考えたこと

・そこでやりたいと思っていること

「〇〇になりたい」だけでなく、なりたと思った理由や「～ができる〇〇になりたい」などその職業についてからの働き方や生き方についても併せて考えさせましょう。

あなたの将来の夢は何ですか。

夢をかかえるための、卒業後の進路計画を書きましょう。

希望している職業に就くことも含めて、卒業後の進路をどのように思い描いているか、簡単に書かせましょう。

4 先生からのアドバイス

生徒の長所、得意なこと、頑張っていたことなどを認める肯定的な内容や、さらに取り組んだらよい内容など総合的な所見を記述しましょう。

図9 広島県「キャリアノート」

これらを踏まえ作成した（試案）が図10である。



これまで蓄積している自分の「キャリアノート」を見返したり、学校で育成を目指している資質・能力について考えたりするように促すことも考えられます。

記入日 平成 年 月 日（ ）

第3学年 組 番 氏名（ ）

1 振り返ってみましょう。

中学校3年間を振り返ったとき、自分自身で成長したなと感じるのは、どんなところですか。また、それを挙げた理由は何ですか。

中学校生活を振り返って、頑張ったことや、そうでなかったことを書きましょう。それらを踏まえ、上級学校で頑張ろうと思っていることを書きましょう。

【頑張ったこと】 + 【そうでなかったこと】 → 【上級学校で頑張ろうと思っていること】

【頑張ったこと】【そうでなかったこと】については、箇条書きでも文章でもよいですが具体が分かるようにしておくと考えの手掛かりとなります。

例：体育祭 → 体育祭応援合戦に向けての取組

【上級学校で頑張ろうと思っていること】については、文章でまとめておくことが望ましいです。その際、【そうでなかったこと】に対する改善が具体的に書けると、見通しをもった取組につながります。

2 考えてみましょう。

あなたの将来の夢は何ですか。

その夢をかなえるために、どんなことを頑張っていますか。

3 振り返って感じたことを書きましょう。

1～3まで個人作業でもよいですが、学級実態に応じて1の内容をペアやグループで交流した後に、振り返って感じたことを書くことで、個人では感じていなかった考えを引き出すこともできます。

【担任から】

保護者に協力していただけるようであれば、枠を二分割し、保護者のコメント欄を設けることができます。

担任からのコメントを読んで感じたこと、考えたこと、これからやってみようと思うことを書きましょう。

保護者にコメントの協力していただけるようであれば、「担任や保護者からのコメントを読んで・・・」とします。



図10 キャリアノート（試案）

例えば、図10の「1 振り返ってみましょう」では、漠然と中学校生活を振り返るのではなく、これまで蓄積している自分の「キャリアノート」を見返したり、学校で育成を目指している資質・能力について考えたりと視点を与えることも考えられる。また、頑張ったことや、そうでなかったことを書く際は、単語だけではなく、あとから考える手掛かりとなるような具体を記述することが望ましい。それらを踏まえ、上級学校で頑張ろうと思っていることを書くことによって、中学校から高等学校へと学校段階を越えて活用できる「キャリアノート」になるのではないかと考える。

表13は、中学校における「キャリアノート」改善試案の活用に向けて示したものである。

表13 中学校における「キャリアノート」改善試案の活用

対象学年	中学校第3学年
実施時期	3学期
活用場面	特別活動 学級活動

中学校で記述する「キャリアノート」改善試案はキャリア教育の要である特別活動において活用することが考えられる。学級実態に応じて、前述の「1 振り返ってみましょう」の内容をペアやグループで交流した後に、「3 振り返って書きましょう」に記述することで、個人では感じていなかった思いや考えを引き出すことにつながる。

また、これまで広島県「キャリアノート」では担任のコメントで終わっていたが、「キャリアノート」を通じての生徒と担任（保護者）の対話と考えた時、担任（保護者）からのコメントを読んで、生徒が感じたこと、考えたこと、さらにはこれからやってみたいことを記述することで、キャリア発達を促すことにつながると考える。

3 「キャリアノート」改善試案の高等学校における活用例

では、中学校から送られた「キャリアノート」改善試案を実際、高等学校で活用するとすると、どのような場が考えられるであろうか。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）において、「特に入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望や目標をもって生活ができるよう工夫すること。」¹⁵⁾と明示されている。

広島県においては、平成18年度入学者選抜から

すべての県立高等学校の通学区域を全県一円としている。また、入学当初である4月、5月については、新しい人間関係を構築する時期でもあることから、表6で示した高等学校段階におけるキャリア発達の特徴の例の入学から在学期間半ば頃までに当たる「新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する。」と合致している。

これらのことから、「キャリアノート」改善試案の高等学校における活用としては、キャリア教育の要である特別活動のホームルーム活動や旅行・集団宿泊的行事が考えられる。

中学校で記述した「キャリアノート」改善試案の高等学校における活用例を示したものが表14である。

表14 中学校で記述した「キャリアノート」改善試案の高等学校における活用例

対象学年	高等学校第1学年
実施時期	4月
活用場面	旅行・集団宿泊的行事 ホームルーム活動 高校生になって

例えば、旅行・集団宿泊的行事やホームルーム活動の中で、ガイダンスやカウンセリングを行い、生徒の行動や意識の変容を促し、生徒一人一人の発達を促す働きかけを行うことができる。ここでいうガイダンスとは、学校生活への適応や人間関係の形成、教科・科目や進路の選択などについて主に集団の場面で必要な指導や援助であり、カウンセリングとは、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、生徒一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う（教育相談を含む。）ものである。また、入学当初に計画をしている自己理解を深め、高校生活に展望をもたせるホームルーム活動では、中学校で記述した「キャリアノート」改善試案を活用し、表15のような授業展開が考えられる。

表15 中学校で記述した「キャリアノート」改善試案を活用した授業展開例

第1学年特別活動 ホームルーム活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現	
題材	高校生になって
ねらい	中学校で記述した「キャリアノート」改善試案を読み返し、改めて高校生になって付けたい力や伸ばしたい力を考え、自分自身の高校生活に展望をもつことができる。

学習展開	1 高校生になって特に頑張ろうと思っていることを「キャリアノート」の「授業」「学校行事」「部活動、ボランティア活動、資格取得等」の欄にまとめる。
	2 中学校で記述した「キャリアノート」改善試案を読み返し、「1」に記述した内容と照らし合わせる。
	3 「2」で気付いたこと、考えたことをグループで交流し、グループのメンバーから気付きをもらう。
	4 メンバーからの気付き等から、改めて高校生になって付けたい力や伸ばしたい力を考える。
	5 「4」の実現に向け、どのように取り組むかをキャリアノートに記述する。

高等学校において、学校の特色を生かした「キャリアノート」を活用する際に、「キャリアノート」改善試案を用い、中学校時代に記述した「上級学校で頑張ろうと思っていること」を実現させようとしているか、振り返る時間を設ける。生徒によって記述している内容は異なるが、入学してからの自分自身の生活や学習状況等を振り返ることで、見通しをもつことにもつながる。さらに、ペアやグループで交流する場を設けることにより、新たな気付きを得ることもできる。

このように学習や生活の見通しをもち、振り返ることを積み重ねることにより、生徒は、年間を通して、あるいは入学してから現在に至るまで、どのように成長してきたかを自分自身で把握することができる。特に、気付いたことや考えたことを書き留めるだけでなく、それを基に、教師と対話をしたり、生徒同士の話し合いを行ったりすることで、生徒は自分自身のよさ、興味・関心など、多面的・多角的に自己理解を深めることになる。また、教師にとっては、一人一人の生徒の様々な面に気付き、生徒理解を深めていくことにつながるものと考えている。

4 高等学校における学校の特色を生かした「キャリアノート」の更なる活用に向けて

各高等学校において、様々なキャリア教育が展開されているが、前述の「キャリア・パスポート」の定義からも、キャリア教育の要である特別活動において、効果的に「キャリアノート」を活用していくことが望まれるところである。

図11は、3年間のキャリア教育指導計画例の一部抜粋である。

学年	月	特別活動		「キャリアノート」の活用例	面接等
		学校行事等	ホームルーム活動		
第一学年 (二年次)	四	入学式、集団宿泊	高校生になって	<p>○ホームルーム活動「高校生になって」や「第1学年を終えて」にて、中学校で記述した「キャリアノート」を活用し、これまでの振り返りや、これからの展望について考えたり、まとめたりすることができる。</p> <p>○年度当初の個人面接や各学期における進路相談、三者面談において、中学校で記述した「キャリアノート」や高等学校での「キャリアノート」を活用し、思いや考えを整理することにつながることができる。</p>	個人面接
	五	生徒総会	高校での学習 学ぶことの意義		進路相談 進路相談
	六	文化祭	文理選択を考える		三者面談
	七				
	八	大学見学			
	九	体育祭	自己の進路と適性		進路相談 進路相談
	十		科目選択		
	十一		進路情報の活用		
	十二		進路ガイダンス		三者面談
	一	姉妹校留学			
	二				
	三	卒業式、校内球技大会	ようこそ先輩 第1学年を終えて		進路相談

第二学年 (二年次)	四	生徒総会	第2学年になって 志望先を考える 志望先を考える	<p>○第1学年のホームルーム活動で記述した「キャリアノート」を活用し、ホームルーム活動「第2学年になって」で、振り返ったり、個人面接や進路相談等で話し合ったりすることができる。</p> <p>○三者面談において、ホームルーム活動で記述した「キャリアノート」を活用し、将来の夢やその実現に向けて頑張っていること、更に頑張ろうと考えていることを明らかにすることができる。</p>	個人面接 進路相談
	五				
	六	大学見学	進路相談 教科担任面接		
	七				体育祭
	八	修学旅行	選択科目の決定		
	九				卒業式, 校内球技大会
	十	卒業式, 校内球技大会	志望先を考える 志望先を考える ようこそ先輩 第2学年を終えて		
	十一				卒業式, 校内球技大会
	十二	卒業式, 校内球技大会	志望先を考える 志望先を考える ようこそ先輩 第2学年を終えて		
	一				卒業式, 校内球技大会
	二	卒業式, 校内球技大会	志望先を考える 志望先を考える ようこそ先輩 第2学年を終えて		
	三				卒業式, 校内球技大会
四	生徒総会	第3学年になって 志望進路の決定	<p>○第1・2学年のホームルーム活動で記述した「キャリアノート」を活用し、ホームルーム活動「第3学年になって」で、振り返ったり、個人面接や進路相談等で話し合ったりすることができる。</p> <p>○志望進路の決定に向けて、成績だけでなく、これまでの積み重ねてきた「キャリアノート」から、生徒自身が大事にしてきたものを洗い出し、自己実現に向けて、三者面談等で話し合うことができる。</p>	個人面接 進路相談 教科担任面接	
五					文化祭
六	校内球技大会	志望進路の決定		進路相談	
七					体育祭
八	卒業式	志望進路の決定		三者面談	
九					卒業式
十	卒業式	志望進路の決定		三者面談	
十一					卒業式
十二	卒業式	志望進路の決定		三者面談	
一					卒業式
二	卒業式	志望進路の決定		三者面談	
三					卒業式
四	卒業式	志望進路の決定	三者面談		
五				卒業式	志望進路の決定
六	卒業式	志望進路の決定	三者面談		
七				卒業式	志望進路の決定
八	卒業式	志望進路の決定	三者面談		
九				卒業式	志望進路の決定
十	卒業式	志望進路の決定	三者面談		
十一				卒業式	志望進路の決定
十二	卒業式	志望進路の決定	三者面談		
一				卒業式	志望進路の決定
二	卒業式	志望進路の決定	三者面談		
三				卒業式	志望進路の決定

図11 3年間のキャリア教育指導計画例の一部抜粋

表15のようなホームルーム活動の1単位時間での展開のみならず、図11のように3年間を見通し、目指す生徒像の実現に向けてキャリア教育を推進していくことが重要であるのは、言うまでもない。

今後も、生徒にとって価値あるものと実感できる

「キャリアノート」となるよう、各学校段階での取組をつなぐ、好事例を収集し、発信していきたい。

おわりに

懇切丁寧に御指導いただいた福山大学人間文化

学部人間文化学科小原友行教授，学校として生徒に付きたい資質・能力を明確にし，年間を通じ，児童生徒の成長を願い，一人一人のキャリア発達を促すキャリア教育を展開された広島県立廿日市高等学校，広島県立広島工業高等学校，広島県立西条農業高等学校，広島県立広島商業高等学校，広島県立広島高等学校，そして，最新の国の情報や忌憚のない御意見をいただいた広島県教育委員会義務教育指導課住吉谷大輔指導主事，高校教育指導課吉屋晋二指導主事に衷心より感謝を申し上げます。

【注】

- (1) 文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター編 (2016) : 「変わる！キャリア教育—小・中・高等学校までの一貫した推進のために—」の資料編「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第一次報告書 (概要版) —キャリア教育の現状と課題に焦点をあてて—」に詳しい。
- (2) 広島県教育委員会 (平成20年) : 「夢をはぐくみ，在り方生き方を考えさせる キャリア教育の推進—幼児児童生徒一人一人の『自己実現』をめざして—」に詳しい。
- (3) キャリア教育支援会議 (平成20年) : 「広島県におけるキャリア教育の充実に向けて (提言) 輝く大人をめざして 夢のスケッチブックづくり」に詳しい。
- (4) 中央教育審議会 (平成23年) : 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」 pp. 19-20に詳しい。
- (5) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター (2014) : 「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」 pp. 30-31に詳しい。
- (6) 文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター (2014) : 前掲書pp. 88-90に詳しい。
- (7) 文部科学省 (平成23年) : 「小学校キャリア教育の手引き [改訂版]」 p. 78に詳しい。
- (8) 文部科学省 (平成23年) : 「中学校キャリア教育の手引き」 p. 116に詳しい。
- (9) 文部科学省 (平成24年) : 「高等学校キャリア教育の手引き」 p. 129に詳しい。
- (10) 文部科学省 (平成24年) : 前掲書p. 26に詳しい。
- (11) 文部科学省 (平成23年) : 前掲書pp. 26-28に詳しい。
- (12) 文部科学省 (平成31年) : 「キャリア・パスポート」導入に向けた調査研究協力者会議 (第3回) 配付資料 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/143/shiryo/1413594.htmlに詳しい。
- (13) 文部科学省 (平成30年告示) : 「高等学校学習指導要領解説特別活動編」 pp. 67-68に詳しい。

【引用文献】

- 1) 広島県教育委員会 (平成20年) : 「キャリア教育実践の手引き」 p. 7
- 2) 広島県教育委員会 (平成20年) 「夢をはぐくみ，在り方生き方を考えさせる キャリア教育の推進—幼児児童生徒一人一人の『自己実現』をめざして—」 p. 35
- 3) 藤田晃之 (2014) : 『キャリア教育基礎論 正しい理解と実践のために』 p. 57
- 4) 中央教育審議会 (平成23年) : 「今後の学校における

キャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」 p. 25

- 5) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター (2014) : 『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』 p. 88
- 6) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター (2014) : 前掲書p. 88
- 7) 文部科学省 (平成24年) : 『高等学校キャリア教育の手引き』 p. 16
- 8) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター (2014) : 前掲書p. 90
- 9) 文部科学省 (平成23年) : 『中学校キャリア教育の手引き』 p. 26
- 10) 文部科学省 (平成24年) : 前掲書p. 26
- 11) 文部科学省 (平成24年) : 前掲書p. 129
- 12) 文部科学省 (平成16年) : 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 (報告書)」 pp. 28-30
- 13) 文部科学省 (平成24年) : 前掲書p. 44
- 14) 中央教育審議会 (平成28年) : 「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」 p. 56
- 15) 文部科学省 (平成30年) : 「高等学校学習指導要領」 p. 650

【参考文献】

- 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・鹿嶋研之助・池場望・下村英雄編著 (2008) : 「教育再生のためのグランド・レビュー キャリア教育の系譜と展開」 社団法人 雇用問題研究会
- 稲葉茂勝著・長田徹監修 (2017) : 『みんなが元気になるのしい！アクティブ・ラーニング③「キャリア・ノート」つくる意味とつくり方～「キャリア・ノート」は，きみの将来の宝もの』 フレーベル館